

伊野のまちづくり 島大学生の提案

イノターン (INOTERN) —伊野で体験&出会い—

私は伊野での様々な体験で価値観が変わった。地区外の高校生～社会人に伊野でインターンシップの機会を提供することで人生の指標形成につながるのではないかと。業種ではなく、人にスポットをあてる。伊野にはいろんな人がいる。参加者が興味ある人やことに対して日程を組めるようにする。これが伊野に飛び込む玄関口になり、関係人口を増やすきっかけにもなる。課題は幅広い受け入れ先の確保や宿泊先の確保。

村田 明日香

子ども時代の体験は一生もの

伊野の自然の豊かさを広めよう。

伊野には湖、里山、海の3つのフィールドがある。地元の人には豊かな自然が当たり前になっているが貴重な資源だ。子ども時代の原風景をつくるために3つの提案をしたい。

- ①泳ぎながら、生きものを観察できる・さわれる自然プールを作る
- ②ホテルロードをもっとアピールする。
- ③自然をいかした遊び、伝統遊び、食材などを盛り込んだ「伊野あそび大全集」を作る。

平田 良

ゲームで子どもを笑顔にしよう

ゲームはだれとでも仲良くなれる魔法のアイテム

昔は将棋や囲碁で仲良くなっていた。ツールがゲームに替わっただけだ。コミセンに参加自由なゲームスペースを設けよう。ふだん、家から出ない子どもと仲良くなるチャンスが生まれる。世代間交流もできる。介護予防にもつながる。

丸山 諒

地域活性化には「小学校教育」がキーワード

住民の皆さんから「子どもの存在が原動力」という声をたくさん聞いた。地域活性化には持続性が大事。次世代育成には小学校教育がカギを握っている。小学校の魅力をもっと発信すること、子ども主体の行事を増やすことが課題だ。

加納 正紘

空き家を活用した伊野地区のまちづくりと移住・創業サポート

空き家を改修し、外部から同じまたは異なる「持ち味」を持つ人呼び込む。自治体や地域住民のサポートで創業につなげる。まずは小商いから始める。

移住を決める際の壁となる「就労」と「コミュニティになじめるか」、という2大問題をクリアできるような取組がポイント。

橋本 初花



県議の前で発表する島大生

島大生が提案発表 県議団が伊野視察

九月二四日、森山健一県議ら五人が伊野を視察に訪れた。「よつ得!?伊野いち」から始まり、地合漁港、空き家活用の垂水邸を見て回った。

午後八時、八月下旬に垂水邸で寝泊まりしながら伊野のまちづくりについて考えた学生(丸山実子先生指導)が県議団の前で提案発表を

行った。学生たちは提案を実現しようとして、伊野のまちづくりに関わり始めた。十月二日開催の「子どもフリーマーケット」には加納正紘さんがスタッフとして参加した。丸山諒さんは文化祭でゲームコーナーを開設する予定。